

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

富士ダイス

6167 東証プライム市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 7 月 16 日 (水)

執筆：客員アナリスト

岡本 弘

FISCO Ltd. Analyst **Hiroshi Okamoto**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

目次

■ 要約	01
■ 会社概要	02
1. 沿革と事業概要	02
2. 事業内容	02
3. 人員推移と拠点ネットワーク	05
■ 業績動向	06
1. 2025 年 3 月期の連結業績概要	06
2. 顧客産業分類別の状況	08
3. 財務状況と経営指標	09
■ 今後の見通し	10
● 2026 年 3 月期の業績見通し	10
■ 中長期の成長戦略	13
1. 変化に対応できる企業体質への転換	13
2. 成長分野に向けた製品開発	14
3. 海外事業の飛躍	17
■ 株主還元策	18

■ 要約

人と素材と技術の力で感動体験を

富士ダイス <6167> の創業は 1949 年に創業者の新庄鷹義氏が線引きダイスの修理に挑戦することから始まった。以来、超硬合金を主軸に耐摩耗工具や金型を製造してきた。超硬耐摩耗工具業界において長期にわたり 30% 以上のトップシェアを堅持し、創業以来黒字経営を継続しており、2025 年 3 月期末時点で 81.0% と高い自己資本比率を誇る。

2025 年 3 月期の連結業績は売上高 16,595 百万円（前期比 0.5% 減）、営業利益 488 百万円（同 39.7% 減）、経常利益 603 百万円（同 31.6% 減）、親会社株主に帰属する当期純利益 426 百万円（同 39.9% 減）と 2 期連続で収益減となった。売上面では製缶金型や車載用電池向け金型、半導体製造装置向けの需要、中国向け超硬素材等の売上拡大も、自動車生産回復の遅れ、海外向け溝付きロールの在庫調整、半導体向け混錬工具などが低調に推移し、昨年 11 月に修正した予想比 405 百万円未達に終わった。利益面では生産性向上など一定の効果があつたものの、売上横ばいでタングステンを中心とする原材料の高騰、IT 投資や人材投資などの各種コスト増が利益を圧迫、営業利益で予想比 191 百万円未達となり減益となった。

2026 年 3 月期の連結業績は売上高 17,670 百万円（前期比 6.5% 増）、営業利益 600 百万円（同 22.9% 増）、経常利益 700 百万円（同 16.1% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 460 百万円（同 8.0% 増）を見込む。売上面では自動車部品関連金型の回復に伴う需要増、新規営業拠点の東莞を足掛かりにした中国市場の深耕などで増収増益を見込む。

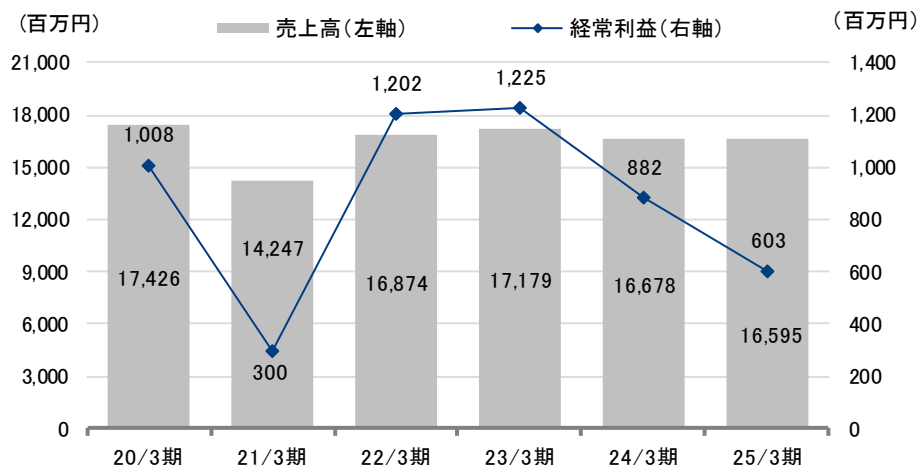
中期経営計画では、「変化に対応できる企業体質への転換」を方針に掲げ、売上高拡大をめざすというよりも収益性を重視し利益にこだわった経営に転換を図る。

Key Points

- ・ 2025 年 3 月期は自動車生産の回復遅れ、海外向け溝付きロール、半導体向け混錬工具の需要減で 0.5% 減収、利益は売上横ばいのなかで原材料高騰、IT 投資・人材投資負担も加わり 39.7% 営業利益減に
- ・ 2026 年 3 月期は自動車部品関連金型の回復に伴う需要増、中国市場深耕等で 6.5% 増収、22.9% 営業利益増予想
- ・ 「中期経営計画 2026」では変化に対応できる企業体質への転換を方針に掲げ、収益性を重視した経営に舵取りを転換

要約

業績推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

会社概要

超硬合金製工具・金型（耐摩耗工具）製造の専門トップメーカー

1. 沿革と事業概要

同社は超硬合金を用いた高精度の耐摩耗工具・金型の製造販売を主たる事業として展開し、超硬耐摩耗工具専門として長期にわたり 30% 超のトップシェアを堅持してきた。「耐摩耗工具」とはチップや切削屑のない塑性変形に使用される工具で、ダイス、せん断工具、金型、プレスモールド、工業用ノズルなどがある。ユーザー（単独ベース）としては輸送用機械、鉄鋼、非鉄金属・金属製品、電機・電子、金型工具向け素材供給があり、幅広い産業で広く利用されているが、全体として自動車産業に関わる比率が約 60% 程度あると見られる。同社の特徴は、製造工程においてユーザー要求に基づき、製品素材や用途に最適な工具・金型を設計した上で、粉末冶金技術を用い原料粉末の粉碎・混合・造粒から、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制により製品を提供している点にある。最大取引先でも売上高の比重が偏らないように独立性を重んじ、様々なオーダーに対応できる多品種少量生産に強みを持ち、高付加価値製品の販売で収益性を確保してきた。

2. 事業内容

同社は超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化しており、主要な取り扱い製品は 4 つに分類される。2025 年 3 月期における売上構成は、超硬製工具類 25%、超硬製金型類 26%、その他の超硬製品 26%、超硬以外の製品 23% となっている。

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

会社概要

主要な製品と具体的な用途例

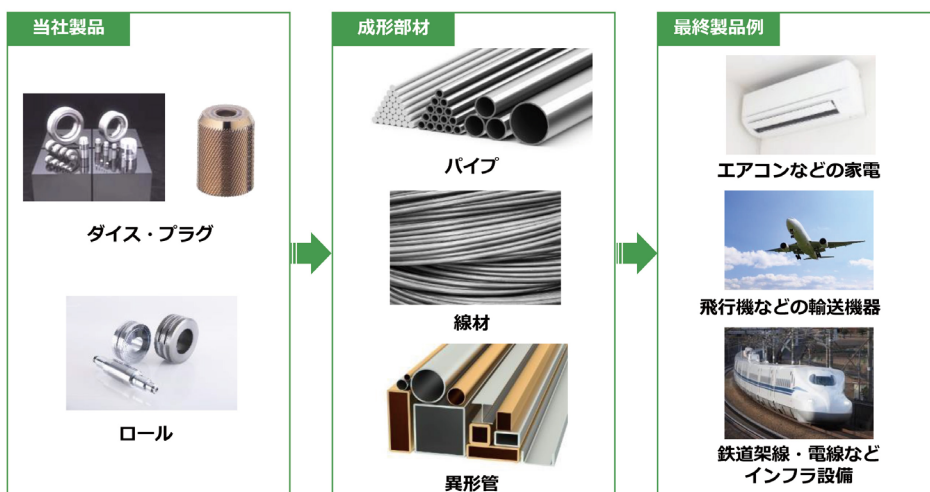
製品区分	主要製品	具体的な用途例
超硬製工具類	ダイス、プラグ	線材、パイプの生産用工具
	溝付プラグ	熱交換器用パイプの生産用工具
	熱間圧延ロール	鉄鋼素材の生産用工具
	冷間フォーミングロール	建材、パイプの生産用工具
	超高圧発生用工具	人工ダイヤモンド・c B N等の生産用工具
	混練工具	樹脂・セラミックス等の生産用工具
	刃物類	鋼板、フィルム、箔などを切断する刃物
超硬製金型類	自動車部品生産用金型	エンジン・駆動系・操舵系・安全装置部品の生産用金型
	製缶金型	飲料缶、食用缶の生産用金型
	電池関連金型	電池ケース、電池部材の生産用金型、車載電池用金型
	光学素子成形用金型	ガラスレンズの生産用金型
	粉末成形用金型	磁石、焼結部品の生産用金型
	半導体・電子部品用金型	封止材生産用金型
その他の超硬製品	各種部品	各種装置部品
	超硬合金チップ	各種金型・工具、刃物の素材
超硬以外の製品	鋼製品	飲料缶、エンジン部品等の生産用金型
	セラミックス製品	機械工具、治工具
	F H R 製品	耐熱用部材、鋳造用部材
	K F 2 製品	樹脂等の生産用工具、治工具
	銅タングステン合金	放電加工用電極
	電着工具	硬質材料の加工用砥石
	固体潤滑複合材料 (N F メタル)	真空蒸着装置用軸受、特殊環境用軸受
	引拔鋼管	ベアリング、自転車部品の部材

出所：定時株主総会招集通知及び株主総会資料より掲載

代表的な製品例（引抜・押出・圧延加工をする工具）

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用



出所：個人投資家向け説明資料より掲載

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

会社概要

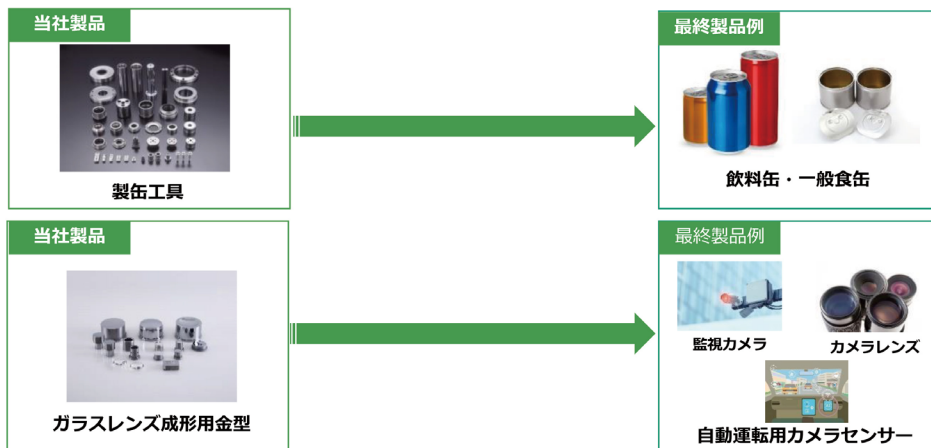
代表的な製品例（飲料缶・一般食品を製造する工具・金型、光学素子を製造する金型）

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラ・自動運転用カメラセンサーのレンズを生産する金型



出所：個人投資家向け説明資料より掲載

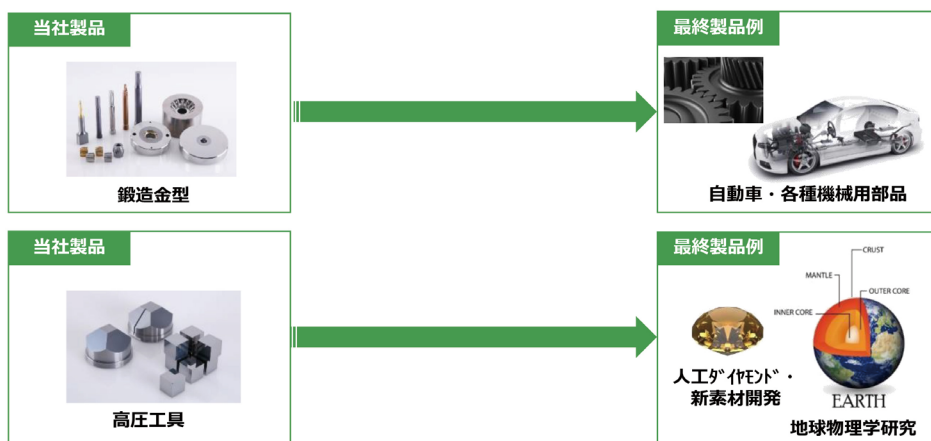
代表的な製品例（鍛造用工具・金型、高圧工具）

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具



出所：個人投資家向け説明資料より掲載

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

会社概要

3. 人員推移と拠点ネットワーク

同社の 2025 年 3 月期末の従業員数は 1,090 名、この内単独 855 名となっている。過年度からの推移では 2020 年 3 月期に連結 1,155 名、単独 915 名をピークに 5 期連続若干名ずつ減少しているが、大きな変動はない。拠点ネットワークとしては国内生産・営業拠点 12 ヶ所、海外はタイ・インドネシアの生産・営業拠点を含む合計 5 ヶ国（インドは今年度中に再開予定）がある。

拠点ネットワーク（2025 年 3 月末時点）

【国内】

★生産・営業拠点 5ヶ所
■生産拠点 2ヶ所
★営業拠点 5ヶ所

【海外】

★生産・営業拠点 2ヶ国
(タイ・インドネシア)
★営業拠点 3ヶ国
(中国・マレーシア・インド)



出所：決算説明資料より掲載



業績動向

**2025 年 3 月期は自動車生産回復遅れ、
海外向け溝付きロール、混練工具の需要減で 0.5% 減収、
利益は材料高騰、IT 人財投資負担等で 39.7% 営利減**

1. 2025 年 3 月期の連結業績概要

2025 年 3 月期の連結業績は売上高 16,595 百万円（前期比 0.5% 減）、営業利益 488 百万円（同 39.7% 減）、経常利益 603 百万円（同 31.6% 減）、親会社株主に帰属する当期純利益 426 百万円（同 39.9% 減）と 2 期連続で収益減となった。売上面では製缶金型や車載用電池向け金型、半導体製造装置向けの需要、中国向け超硬素材等の売上拡大はあったものの、自動車生産回復の遅れ、加えて海外向け溝付きロールの在庫調整が思いの外長引き、半導体向け混練工具なども低調に推移したため、昨年 11 月修正の計画比 405 百万円未達に終わった。利益面では生産性向上などの一定効果があったものの、売上が横ばいで推移するなかで、タングステンを中心とする原材料の高騰、IT 投資や人財投資によるコスト増などから利益が圧迫され、営業利益で予想比 191 百万円未達となり減益となった。

2025 年 3 月期連結業績

（単位：百万円）

	24/3 期			25/3 期		
	実績	対売上比	前期比	実績	対売上比	前期比
売上高	16,678	100.0%	-2.9%	16,595	100.0%	-0.5%
売上原価	12,440	74.6%	-2.2%	12,463	75.1%	0.2%
販管費	3,429	20.6%	3.6%	3,643	22.0%	6.2%
営業利益	809	4.9%	-29.7%	488	2.9%	- 39.7%
経常利益	882	5.3%	-28.0%	603	5.1%	-31.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	709	4.3%	-45.1%	426	2.6%	-39.9%

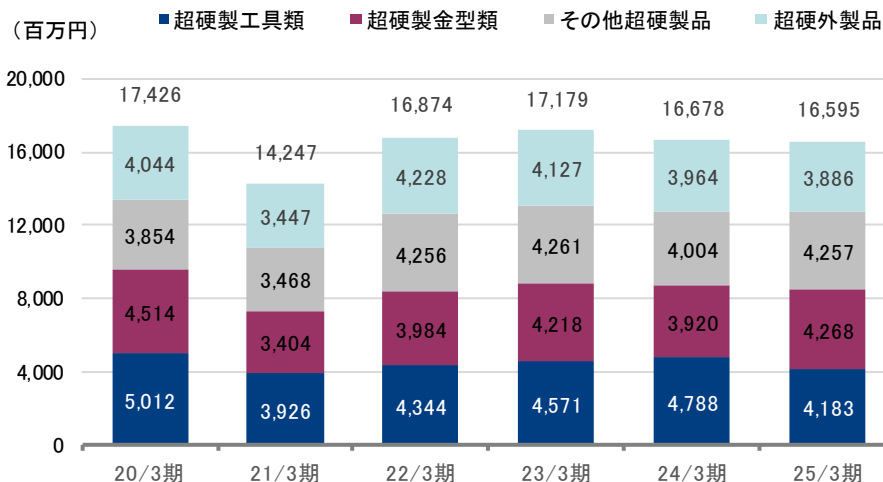
出所：決算短信よりフィスコ作成

製品区分による売上高の動向は、超硬製工具類では、海外向け溝付きロールが顧客の在庫調整により大幅に減少、売上高が 4,183 百万円（前期比 12.6% 減）と低迷した。超硬製金型類では、二次電池向け金型の販売が顧客の生産地変更による影響が一巡、製缶金型が好調に推移し、売上高は 4,268 百万円（同 8.9% 増）となった。その他の超硬製品では、半導体製造装置向けの需要が堅調に推移、中国向け素材販売も好調に推移、売上高は 4,257 百万円（同 6.3% 増）となった。超硬以外の製品では、一部の鋼製自動車部品用工具・金型の販売が堅調に推移も半導体向け混練工具などが不振で、売上高は 3,886 百万円（同 2.0% 減）となった。

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

業績動向

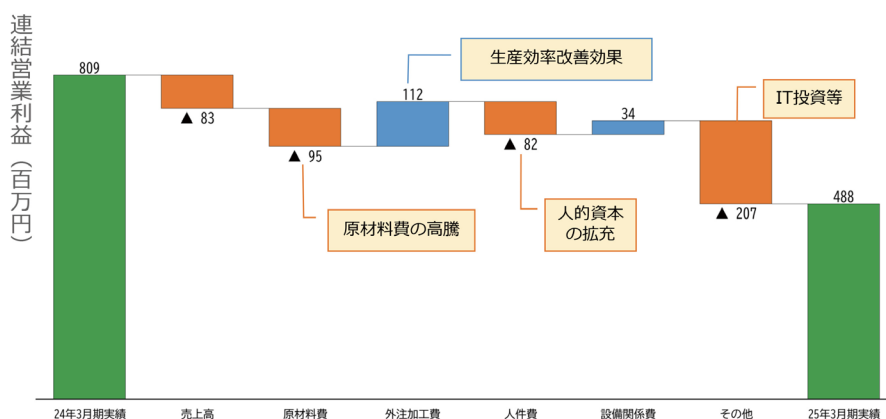
製品区分別売上推移



出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

営業利益の増減要因では、減収影響で 83 百万円の減益要因に加え、超硬材料高 95 百万円の減益要因、さらに人的資本の拡充で 82 百万円、10 月に稼働した新基幹システムなど IT 投資に伴うコスト 207 百万円の影響があり、外注加工費などの削減による生産性向上効果 112 百万円などの効果で補えず、減益を余儀なくされた。また、修正計画の 680 百万円に対して 191 百万円未達となったが、これは売上の減額影響 405 百万円の影響が大きく、加えて売上減で本来は材料費減となるはずのものが、APT（パラタングステン酸アンモニウム）などの高騰が影響し 28 百万円にとどまったこと、これをその他でカバーできなかったこと等による。

連結営業利益増減要因（前期比）



(単位：百万円/百万円未満 切り捨て)

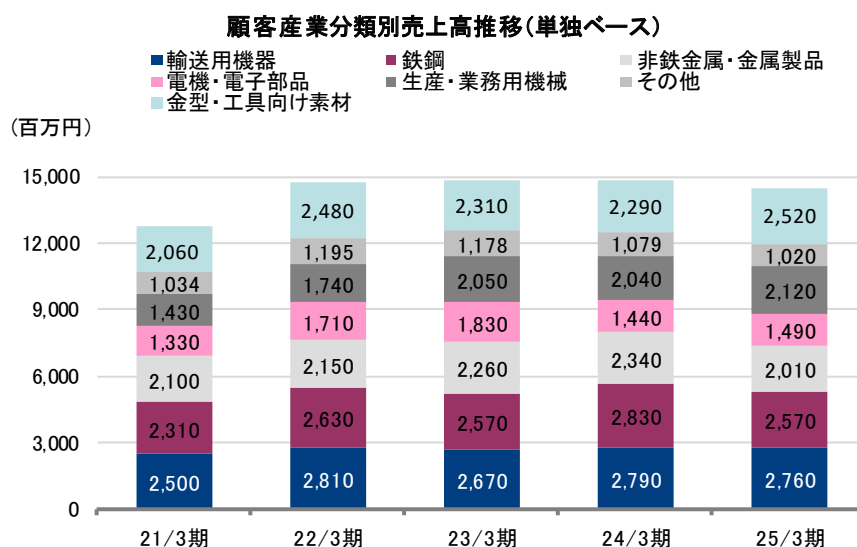
出所：決算説明資料より掲載

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

業績動向

2. 顧客産業分類別の状況

2025 年 3 月期の単独ベースでの顧客産業分類別売上動向では最大仕向け先である輸送用機械向けは自動車部品メーカーの生産調整の影響から 2,760 百万円（昨年 11 月に修正した予想比 140 百万円未達、前年同期比 1.1% 減）となった。鉄鋼関連は海外向けロールが堅調も自動車生産の回復遅れから 2,570 百万円（同 110 百万円未達、同 9.2% 減）に。非鉄金属向けは海外向け溝付きロールがユーザーの在庫調整の影響で低迷し 2,010 百万円（同予想どおり、同 14.1% 減）となった。生産・業務用機械向けは半導体装置向けやガラスレンズ向け、車載向けの光学素子向けなどが好調だったが、その他では設備投資停滞で 2,120 百万円（同 100 百万円未達、3.9% 増）にとどまった。半導体向け混錬工具が不振だったが、電機・電子向けは昨年度の納入先大手ユーザーの米国生産移管影響が一巡し国内新型電池生産が寄与し、売上高 1,490 百万円（同 70 百万円上振れ、同 3.5% 増）となった。金型・工具向け素材については、新たに開設した中国・東莞の営業所の活動が功を奏し、海外向けの超硬素材販売が好調で 2,520 百万円（同 60 百万円上振れ、同 10.0% 増）となった。



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

業績動向

黒字継続と無借金経営で財務基盤は極めて堅固

3. 財務状況と経営指標

同社は創業以来、黒字経営を継続、高い自己資本比率を維持している。足元の企業業績は厳しいが、手元資金が潤沢であり、借入がほとんどなく、強固な財務体質、キャッシュ・フローも健全な流れを維持している。

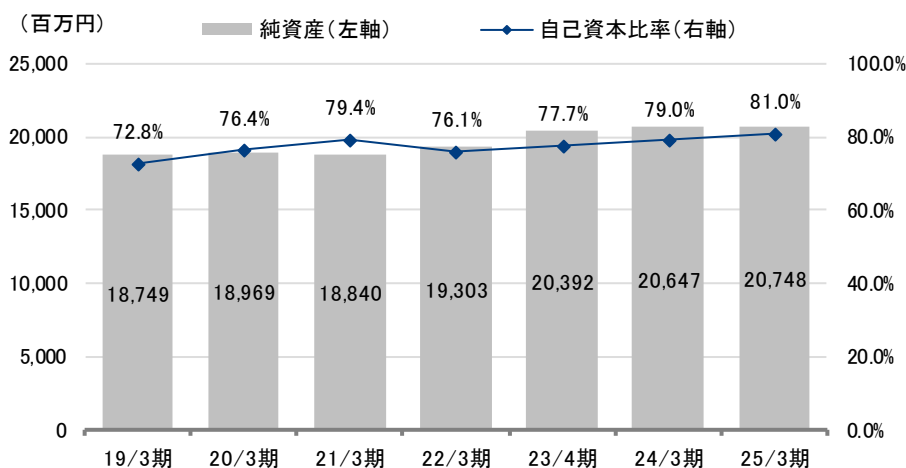
連結貸借対照表及び主要な経営指標

(単位：百万円)

	23/3 期末	24/3 期末	25/3 期末	増減額
流動資産	15,724	15,024	14,909	-115
固定資産	10,528	11,114	10,694	-420
総資産	26,253	26,138	25,603	-535
流動負債	4,197	3,871	3,395	-476
固定負債	1,662	1,619	1,460	-159
負債合計	5,860	5,491	4,855	-636
純資産	20,392	20,647	20,748	101
(安全性)				
流動比率	374.6%	388.1%	439.1%	
自己資本比率	77.7%	79.0%	81.0%	

出所：決算短信よりフィスコ作成

純資産・自己資本比率推移

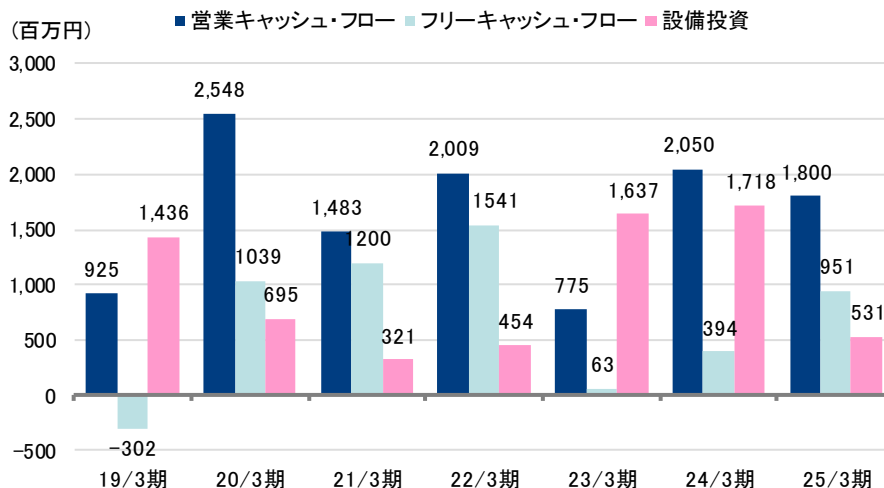


出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

業績動向

営業CF残高・フリーCF残高と設備投資推移



出所：決算短信、決算説明資料よりフィスコ作成

今後の見通し

2026 年 3 月期予想は 6.5% 増収、22.9% 営業増益予想、自動車部品関連金型回復、中国拠点の拡販で増収確保し増益見通し

● 2026 年 3 月期の業績見通し

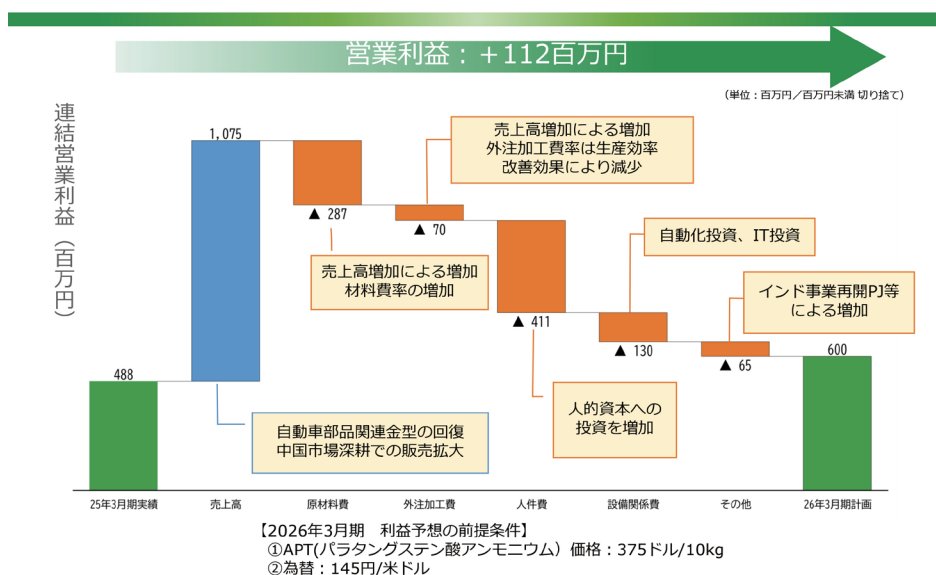
2026 年 3 月期の連結業績は、売上高 17,670 百万円（前期比 6.5% 増）、営業利益 600 百万円（同 22.9% 増）、経常利益 700 百万円（同 16.1% 増）、親会社株主に帰属する当期純利益 460 百万円（8.0% 増）予想とした。人件費増や原材料高の影響があるものの自動車部品の回復、次世代自動車向け拡大、中国市場の開拓が寄与し収益回復を見込む。2026 年 3 月期上期は売上高 8,720 百万円（前年同期比 5.3% 増）、営業利益 220 百万円（同 24.5% 減）予想に対し、2026 年 3 月期下期は売上高 8,950 百万円（同 7.6% 増）、営業利益 380 百万円（同 92.9% 増）と下期本格回復を見込む。

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

今後の見通し

営業利益面で 112 百万円増の要因では、増収効果が 1,075 百万円、一方で売上増による材料費増 287 百万円、内製化進展も売上増に伴う外注費増 70 百万円、人的資本投資増 411 百万円、自動化、IT 投資増 130 百万円、インド事業再開の費用増等 65 百万円の減益要因があるとした。現在、APT 価格が史上最高値を更新、この状況が続く場合に影響が下期に顕在化、下期収益の回復遅れのリスクがあり、一段の経営効率改善が必要と見られる。

連結営業利益増減予想 2026年3月期 業績見通し増減グラフ



2026 年 3 月期の主要産業分類別（単独ベース）売上予想では、最大需要先の輸送用機械向けを 2,920 百万円（前期比 5.8% 増）と次世代自動車向け開発案件の獲得による需要増を見込む。鉄鋼向けは 2,740 百万円（同 6.6% 増）と自動車生産の回復や海外鉄鋼向けなどの販売で増加予想である。非鉄金属・金属製品向けも 2,160 百万円（同 7.5% 増）と海外向け溝付きロールの在庫調整一巡、耐アルミ関連製品増を見込む。生産・業務用機械は半導体製造装置向けは軟調だが、光学素子向け金型が好調に推移するとの予想で 2,120 百万円（同 0% 増）と横ばい見通した。電機・電子向けについては車載用電池向け製品は需要減の予想だが、開発中の AI データセンター電子部品向け製品の需要を見込み、1,540 百万円（同 3.4% 増）との見通しである。金型・工具向け素材は 2,790 百万円（10.7% 増）と、2 年目を迎える中国・東莞の拠点を足掛かりに海外向けの超硬素材販売の拡大が見込めるとしている。

現在、トランプ関税問題から特に自動車、鉄鋼などで高率関税、サプライチェーン見直しも必要となっており、全体で自動車関連売上が 60% 程度を占める同社にとって、同社固有の要因ではない需要低迷による売上減額リスクがあるだけに、新市場開拓、高付加価値製品の販売拡大などでの売上確保がカギとなる。

今後の見通し

2026 年 3 月期主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し

	輸送用機械	鉄鋼	非鉄金属・金属製品																																										
売上高（億円）	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>28.1</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>26.7</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>27.9</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>27.6</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>29.2</td></tr><tr><td>計画</td><td>29.0</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	28.1	23/3期	26.7	24/3期	27.9	25/3期	27.6	26/3期	29.2	計画	29.0	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>26.3</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>25.7</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>28.3</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>25.7</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>27.4</td></tr><tr><td>計画</td><td>26.8</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	26.3	23/3期	25.7	24/3期	28.3	25/3期	25.7	26/3期	27.4	計画	26.8	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>21.5</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>22.6</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>23.4</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>20.1</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>21.6</td></tr><tr><td>計画</td><td>20.1</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	21.5	23/3期	22.6	24/3期	23.4	25/3期	20.1	26/3期	21.6	計画	20.1
期	売上高（億円）																																												
22/3期	28.1																																												
23/3期	26.7																																												
24/3期	27.9																																												
25/3期	27.6																																												
26/3期	29.2																																												
計画	29.0																																												
期	売上高（億円）																																												
22/3期	26.3																																												
23/3期	25.7																																												
24/3期	28.3																																												
25/3期	25.7																																												
26/3期	27.4																																												
計画	26.8																																												
期	売上高（億円）																																												
22/3期	21.5																																												
23/3期	22.6																																												
24/3期	23.4																																												
25/3期	20.1																																												
26/3期	21.6																																												
計画	20.1																																												
製品イメージ	鋳造金型	圧延ロール	製缶工具																																										
事業概況	25/3期は、自動車部品メーカーの生産調整の影響を受け、徐々に回復するも目標は未達。 26/3期は、次世代自動車向けの開発案件の獲得による需要増を見込む。	25/3期は、海外向け熱間圧延ロールが堅調に推移したが、自動車生産減の影響を補えず。 26/3期は、自動車生産の回復や、海外鉄鋼向け販売、新規顧客への拡販により回復を見込む。	25/3期は海外向け満付ロールが顧客での在庫調整により大幅減。 26/3期は満付ロールの在庫消化が進み通常化、耐アルミ関係製品の需要増を見込む。																																										

	生産・業務用機械	電機・電子部品	金型・工具向け素材																																										
売上高（億円）	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>17.4</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>20.5</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>20.4</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>21.2</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>21.2</td></tr><tr><td>計画</td><td>22.1</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	17.4	23/3期	20.5	24/3期	20.4	25/3期	21.2	26/3期	21.2	計画	22.1	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>17.1</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>18.3</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>14.4</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>14.9</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>15.4</td></tr><tr><td>計画</td><td>14.2</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	17.1	23/3期	18.3	24/3期	14.4	25/3期	14.9	26/3期	15.4	計画	14.2	<table><tr><th>期</th><th>売上高（億円）</th></tr><tr><td>22/3期</td><td>24.8</td></tr><tr><td>23/3期</td><td>23.1</td></tr><tr><td>24/3期</td><td>22.9</td></tr><tr><td>25/3期</td><td>25.2</td></tr><tr><td>26/3期</td><td>27.9</td></tr><tr><td>計画</td><td>24.6</td></tr></table>	期	売上高（億円）	22/3期	24.8	23/3期	23.1	24/3期	22.9	25/3期	25.2	26/3期	27.9	計画	24.6
期	売上高（億円）																																												
22/3期	17.4																																												
23/3期	20.5																																												
24/3期	20.4																																												
25/3期	21.2																																												
26/3期	21.2																																												
計画	22.1																																												
期	売上高（億円）																																												
22/3期	17.1																																												
23/3期	18.3																																												
24/3期	14.4																																												
25/3期	14.9																																												
26/3期	15.4																																												
計画	14.2																																												
期	売上高（億円）																																												
22/3期	24.8																																												
23/3期	23.1																																												
24/3期	22.9																																												
25/3期	25.2																																												
26/3期	27.9																																												
計画	24.6																																												
製品イメージ	光学素子成型用金型	電池向け金型	金型・工具向け素材																																										
事業概況	25/3期は、半導体製造装置向けや光学素子向けの販売が好調に推移するも目標は未達。 26/3期は、半導体製造装置向けは軟調との予想だが、光学素子向けは撮像向け新製品の引き合い継続で堅調に推移する見込み。	25/3期は、半導体向け製品が低調だったが、前期需要減の車載用電池向け製品の需要が拡大。 26/3期は、車載用電池向け製品は前期比減の予想だが、AIデータセンター電子部品向け製品の需要を見込む。	25/3期は、EV関連向けは低調に推移したが、海外向けの超硬素材販売が好調。 26/3期は、2年目を迎える東莞拠点を足掛かりに中国市場の深耕などにより、海外向けの超硬素材販売拡大を見込む。																																										

出所：決算説明資料より掲載

富士ダイス
6167 東証プライム市場

2025 年 7 月 16 日 (水)
<https://www.fujidie.co.jp/ir>

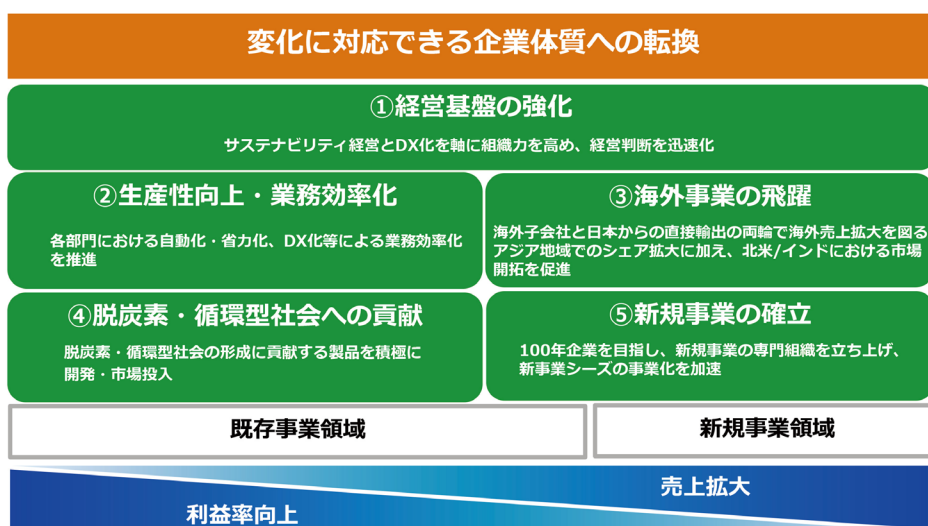
■ 中長期の成長戦略

業務効率化、成長分野の新製品開発、グローバル展開を推進

1. 変化に対応できる企業体質への転換

同社は新社長の下で 2024 年に「中期経営計画 2026」を策定、「変化に対応できる企業体質への転換」をコンセプトに掲げた。「中期経営計画 2026」の具体的な連結数値目標として最終年度の 2027 年 3 月期に、売上高 200 億円、営業利益 20 億円、経常利益率 10.5%、ROE7.0% を掲げた。2027 年 3 月期の連結数値目標については米国関税問題などの影響が不透明として変更していない。

中期経営計画 2026 のコンセプト



**国内事業は成長の基盤（安定的に成長）、成長を牽引するのは海外事業
将来の成長基盤の育成として新事業の実現という方向性**

出所：決算説明資料より掲載

同社はこのような環境を踏まえ、売上拡大を目指すというより、収益性の改善が最重要課題であるとして、生産部門の自動化推進、新基幹システムの活用等で生産性向上、業務効率化を加速する。具体的には 2025 年 3 月期にデータ化の推進のため基幹システムを刷新した。加えて郡山製造所に研削作業にロボットを導入、冶金工程でも自動化ロボットの対応製品拡大を行った。さらに熊本製造所では CAD/CAM の活用を進めた。また、2026 年 3 月期以降の自動化では自動化推進に 160 百万円を投入予定で、効果測定結果を踏まえ、さらなる効率化投資を行うとしている。また、価格戦略の見直しで売上の選別も行い収益性の向上を目指すとしている。

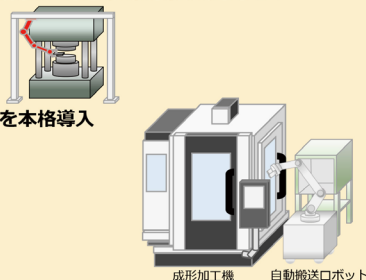
富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

中長期の成長戦略

2026 年 3 月期以降の自動化導入計画

2026年3月期以降の自動化導入計画

自動化推進に 1 億6000万円投資、効果測定結果を踏まえてさらなる投資も予定

郡山製造所	■ 冶金工程の粉末成形プレス機にロボットアームを追加、焼結用カーボンケースへの充填作業を自動化	 成形加工機 自動搬送ロボット
熊本製造所	■ 部品どりを最適化するCAD・CAMの自動ネスティングを本格導入	
	■ 冶金工程の成形加工機に自動搬送ロボットを追加導入	
岡山製造所	■ 自動床洗浄ロボットを試験導入	
桑野工場	■ 研削加工作業に自動化ロボットを導入 ■ プラグ製作工程に自動ろう付機を導入	

出所：決算説明資料より掲載

以下では主に成長分野、成長戦略に沿った施策について見ていく。

2. 成長分野に向けた製品開発

(1) 次世代自動車関連

同社は重要施策のなかで脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入する方針であるが、とりわけ業容拡大においては最大需要先である自動車産業向けの対応が非常に重要となる。そのため二次電池、モーターコア、高熱膨張レンズ用金型などへの注力を続けている。

二次電池ケース成形用金型について、同社は従来から角型対応は進めていたが、円筒型については米国 IRA 法により主力納入先の米国移管が発生し痛手を被った。このため、精密金型加工技術を生かし角形 LIB 用も本格的に手掛けていく。車載用角型 LIB の市場は、トヨタ自動車 <7203> (51%) とパナソニックホールディングス <6752> (49%) が合併会社として設立したプライムプラネットエナジー & ソリューションズ (株) において拡張が進行、2024 年に約 7GWh/ 年の能力増強がなされた。現状、HEV 向けが堅調も、2026 年以降、兵庫県の拠点を中心に「次世代パフォーマンズ版」と位置づける高性能ナリチウムイオン電池の生産を開始する計画があり、関連会社であるプライムアース EV エナジー (PEVE) の福岡拠点と合わせ、年間合計 9GWh の生産能力が計画されており、今後の拡大が期待される。

同社はモーターコア製造用抜き金型では日系モーターコア製造メーカー各社向けに展開しているが、同市場は国内外に多くの競合が存在している。現在、HEV 向けが多いが、今後 EV 向けの拡大を見据え、新材種「フジロイ VG48」を投入。EV ではモーターの高出力化への要望に応じ積層数を拡大するために電磁鋼板の薄板化が必要となり、現在の 0.2～0.3mm が採用され、同社では市場動向を見越した新材種開発も進んでいる。メーカーでは、積層方式が従来のカシメから接着方式もしくは外装ダボ方式などで対応する動きがある。また、大口径化などで、高硬度電磁鋼板に対応する必要もある。高硬度電磁鋼板では優れた耐摩耗性や耐チップング性及び耐凝着性も必要とされる。同社の VG48 は従来品に対し破壊靱性や耐摩耗性に優れた長寿命化につながる新材種であり、放電加工に微小クラックを生じ難く、強度向上が可能。今後、メーカー認定が進めば大きく拡大が見込める。同社はモーターコア金型材種のラインナップを拡充し、ユーザーの選択肢を増加させシェア拡大を図る。

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

中長期の成長戦略

ワイヤーカット放電加工機において加工液に水を利用する長時間の水切りワイヤー放電加工に対応した製品としては「フジロイ VG51」がある。同製品は汎用材種と比較して耐食性、靱性に優れ、特に水切り加工の周長が長い加工に生じやすい腐食を抑制できる製品となっている。従来の油性は高い絶縁性から放電の安定性があり、特に微細加工や高精度な放電制御が必要な場面で滑らかで均一な仕上げ面ができ、製品の品質が高まる点から、特にナノレベル加工精度分野では油が使われた。さらに油は防錆効果から、ワークピースや加工機内部部品の腐食を防ぐことができた。一方、油は引火性があり火災リスク、また、廃油処理などの問題があった。このようななかで水の絶縁性を向上させる添加剤や薬剤が開発され、安定した放電制御から放電の精度が油に近づき、防錆成分や腐食抑制の薬剤も導入され防錆性能が向上、さらに多くの国や地域で環境規制が強化され、環境負荷の少ない水加工の採用が推進され、水仕様が aumentando。今回開発したフジロイ VG51 は長時間の水切りワイヤー放電加工を行っても腐食が浅く小さくて済む。今後、ワイヤーカット放電加工では精密かつ複雑加工を要求される長時間加工の金型製作が増えるとみられ VG51 は差別化商品として売上拡大が期待される。

電磁鋼板に代えてアモルファス合金帯鋼による高性能のモータ開発が進んでいることに対しても新材種を開発している。モータ出力はトルクと回転数の積に比例し、モータ体格は最大トルクで決まるため、高速回転化を図れば、同出力で小型・軽量化が可能だ。ただし、高速回転化の難題は、渦電流が増大し鉄損が増えモータ損失が増大してしまう。これを解消するため鉄損が通常の鉄の 1/10 と小さい鉄(Fe)とシリコン(Si)、ホウ素(B)からなるアモルファス金属製の薄板が注目された。アモルファス金属は硬くて脆く、加工が難しい。このためこの薄板鋼板を打抜くために、WC 粒度をナノサイズまで微細化し、非常に高い硬さと抗折力を両立したナノ微粒子超硬合金「フジロイ FS06」(初版掲載 2023.5.10)を投入、各社からの引き合いが増加している。さらに「フジロイ FS06」をベースとしながら、新材料開発を進めていく。いずれにしても同社は上記の差別化された製品群を加え、モータコア向けでさらなる売上拡大を見込んでいる。

次世代自動車向けでは自動運転に関連し、光学ガラスレンズ成型用バインダレス超硬合金の他、高熱膨張・低比重硬質合金 (TR 合金) の中国市場での拡販に取り組み、成果が出始めている。同社は「粉末冶金技術と超精密加工技術」を組み合わせることにより、一眼レフカメラなどに使用されるガラスレンズ用の成形金型を市場に展開していた。このなかでユーザーから自動化機器 (自動車、ドローン、監視システム) の実用化に伴い、バインダレス超硬合金をはじめ、高熱膨張・低比重硬質合金の需要が高まっていた。具体的には同レンズが ADAS (先進運転支援システム) に用いられる LiDAR (レーザー光検出による距離計測機) 向けに採用が広がり始めていると推測される。赤外線透過レンズガラスの熱膨張係数 (9MK-1 以上) は一般ガラス (6 ~ 8MK-1) より大きい。従来のバインダレス超硬合金製金型 (4 ~ 5MK-1) ではレンズ成形する際、レンズと金型の熱膨張係数差によりレンズが割れる問題が生じていた。同社はこの問題に対し、高熱膨張係数 (8MK-1 以上) と、従来材料と同等の鏡面性を兼備した新硬質材料、高熱膨張・低比重硬質合金 (TR 合金) を開発し、市場投入した。実際、EV/PHEV 販売台数世界トップの BYD では高級 EV 車「HanEV」に前方 3 個、後方 3 個、計 6 個の LiDAR を搭載、標準装備化している。また、中国ではレベル 4 の完全自動運転タクシーが 2023 年にサービス開始され、一般車両でも運用が始まりつつある。さらに、諸外国でも実証実験が相次いでおり、本格的な生産拡大が期待される。なお、同合金は地上側の検知にも利用されると見られるほか、防犯監視カメラ向け赤外線レンズ用金型用途などにも利用されることから大径品対応も確立している。2024 年から販売を始め、今後、特に中国での需要が旺盛になると見込んでいることから、生産能力増強も必要となる状況で期待が膨らむ。

(2) 省資源関連

省資源、環境負荷低減で注目されるのが希少金属であるタングステン、コバルトの使用量を大幅削減し、鋼と同等で超硬合金に迫る硬さと靱性を併せ持つ省タングステン・コバルト合金の開発である。回転工具分野（粉碎回転刃、ハンマー）への展開を目指しており、モータの負荷軽減による電力削減や、回転数の増加による生産性向上が期待できる。同社は市場のニーズを捉えラインナップ化を進めている。米中摩擦、ロシア問題などで、タングステンについては史上最高値更新となっており、中国が資源の大半を握っているなかで供給不安もあり、コバルトでも供給リスクの高まるなか、思わぬ需要拡大もあり得る。

(3) 次世代エネルギー関連

次世代エネルギー関連では水電解装置用の水素発生用触媒「PME：Powder Metallurgy Electrode」を開発している。本触媒は、従来の貴金属触媒に対し、安価かつ調達性の高いニッケルベースの新型電極で、水素を製造する際の電圧を従来比 20% 削減できる。また、Ca、Fe、Cu という酸化物触媒組成となっており、貴金属を一切使わない組成ということで、コスト効率が高く、環境負荷が小さい電極と言える。IEA 統計によれば 2022 年末現在、水電解装置の世界累積設置容量は約 1.4GW。そのうちアルカリ水電解（AWE）が約 60%、PEM（プロトン交換膜）による水電解が 30% を占めているが、同社は次世代の装置と言われるアニオン交換膜（AEM）水電解向けをターゲットとしている。AEM は AWE の利点であるアルカリ環境下での非貴金属触媒の優位性（欠点は耐久性、起動が遅い、低圧運転）と、PEM のコンパクトで光電流密（欠点は Ir/Ru 触媒で高コスト）を両立させることを目指しているもので、同社触媒の利用で安価で効率アップが可能となる。既に AEM 開発メーカー数社から引合いが来ているとのことで、2027 年度に上市予定で量産に対応したい意向。また、同触媒は金属空気二次電池用触媒としての開発も並行して進めている。

(4) 次世代光通信関連

現在 NTT<9432> などにより、次世代情報通信ネットワーク（IOWN：Innovative Optical and Wireless Network）が提唱されているが、この分野では「ファイバーアレイ」、「マイクロレンズアレイ」などの超精密コネクタ金型やフォトニクス用ガラス成形用金型などを開発している。具体的には同社の超精密加工と高精度測定を駆使した金型製造技術で、寸法精度 0.1 μ m 以下の品質保証を必要とする金型となる。金型を製作するための工具を内製することで、他社との差別化を図っている。現在顧客評価の段階にある。

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

中長期の成長戦略

3. 海外事業の飛躍

同社は 2026 年 3 月期以降の取り組みとして、海外展開の飛躍を打ち出した。具体的には国内については人員を増やさず効率化を推進し利益を確保、一方で、2027 年 3 月期には海外売上高比率を 25% まで高める意向。アジアを中心とした海外売上高の拡大について、子会社、輸出の両輪で売上拡大を目指す。2023 年 7 月に海外事業本部を設立、担当役員を擁立し海外事業の強化を実行、2024 年 2 月に中国の東莞に営業拠点を設けた。既に車載用 ADAS 向けやセンサーなどの需要が急拡大しており、さらなる拡販強化を図る。また、中国に続き、25 年度上期には輸出で好調な拡大を見ているインドについて拠点の再開を予定している。

2026 年 3 月期以降の取り組み 海外事業の飛躍



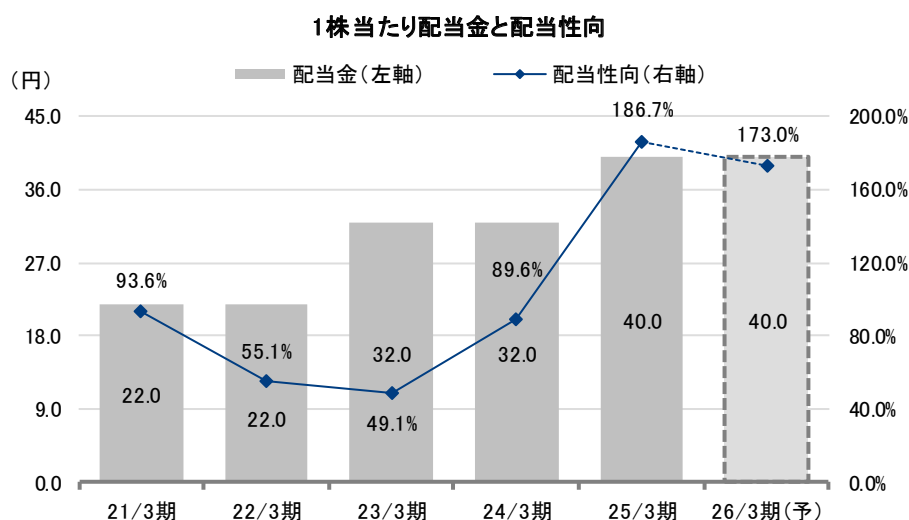
出所：決算説明資料より掲載

富士ダイス | 2025 年 7 月 16 日 (水)
6167 東証プライム市場 | <https://www.fujidie.co.jp/ir>

株主還元策

**2025 年 3 月期配当は減益でも年間 40 円を維持、
配当基準を配当性向から DOE に変更、
DOE 目標値 4% 目途とし 2026 年 3 月期普通配当 40 円継続見込む**

同社は株主還元策として連結配当性向 50% を目途に適切な利益配分を実施してきたが、新中期経営計画において配当政策を従来の配当性向 50% 基準から DOE（株主資本配当率）に変更、株主還元の強化を図るとして 2026 年 3 月期に DOE4.0% を目途とすることとした。2025 年 3 月期配当は減益でも財政状態等また、PBR1 倍割れとなっている現状なども勘案し、期初の予定どおり前期の 1 株当たり 32 円に対して 8 円、普通配当では 18 円増配の 40 円を実施した。2026 年 3 月期も DOE4.0% 想定で 40 円配当を予定している。



出所：決算短信よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp